



ハトは首を前に動かしながら歩くのはなぜ

鳥によって、タイプがちがう

ハトが地上を歩くとき、人間と同じように、左右の足をたがいちがいに出して歩きます。このとき、首が前後に動きます。ニワトリやクイナなども、同じように、歩くとき首を前後に動かします。カモの場合は、首はあまり動かさずに、体を左右にゆすっています。おしりをふって歩くスタイルです。頭が動くと目の位置がゆれます。おそらく、見ている物から視点をずらさないための歩き方でしょう。

早足のときは首が動かない

ハトが少し早足で歩くとき、首は、ほとんど動きません。ゆっくり歩いているときと、ちがいます。首を動かさなければ、歩けないわけではないようです。歩き方と首の動きの関係については、まだよくわかっていませんが、体のバランスをとるためでしょう。

人間が歩くときは、うでをふる

人間が歩くとき、自然にうでをふっていますね。歩くとき、全身の体重が、あるときは右足、つぎは左足、というようにたがいちがいにかかります。右足をあげたときは、反対側の左手、左足をあげたときは右手を前にあげています。手の動きは、体のバランスを取りながら、体重の移動をなめらかにしています。人間が走るときは、うでを曲げ、体の前後にふっています。ハトが歩くとき首をふるのも、人間のうでをふるのと同じようなことかもしれません。（監修・今泉 忠明）

